

## 2020年度 情報システム等の脆弱性情報の取扱いに関する研究会 第2回会合 開催結果概要

- 日時: 2021年2月3日(水)10:30 ~ 12:30
- 場所: オンライン開催(Teams)
- 出席者(敬称略):
  - 座長: 土居
  - 委員: 秋山、歌代、垣内、栗田、小島、柴崎、新、下村、鈴木、高木、高橋、谷川、中尾、中野、山崎、渡辺
  - オブザーバ: METI 鴨田企画官、手塚課長補佐; CSAJ 笹岡、戸島; JPCERT/CC 椎木、洞田、高橋、石川、阿部、佐々木
  - 事務局: IPA 富田理事長、戸高理事、瓜生、桑名、寺田、渡辺、土屋、板橋、井上、唐亀 MRI 村野、江連、小川、朱、平林

### ●主な論点:

#### 1. 前回会合の確認について

事務局から、資料 2-2 に基づき前回会合における検討について説明の後、開催結果概要については委員より承認を得た。

#### 2. 小規模ウェブサイト運営者の脆弱性対策に関する調査について

事務局から、資料 2-3 に基づき調査結果について説明を行なった。

#### 3. 最新のウェブサイトの被害事例に関する調査について

事務局から、資料 2-4 に基づき調査結果の説明後、委員から以下の意見を頂いた。

- ・ 誤読をまねかないよう、タイトルは「ウェブサイトの最近の被害事例」とするのがよい。

#### 4. 企業ウェブサイトのための脆弱性対応ガイドの改訂(案)について

事務局から、資料 2-5 に基づき調査結果の説明後、委員から以下の意見を頂いた。

- ・ 構築前、構築後等の読み手の状況に応じて、どこからガイドを読めばよいかわかるインデックスの追加、CMS に関する脆弱性情報の対策の追加をした方がよい。
- ・ クラウド利用時の設定不備を悪用した攻撃が問題になっている。次年度以降で設定の重要性を啓発していくとよいのではないか。また、海外では、脆弱性情報を自動化してシェアする仕組みがあるため調査するとよい。

#### 5. 海外の政府機関等における脆弱性対策の取組みに関する調査について

事務局から、資料 2-6 に基づき調査結果の説明後、委員から以下の意見を頂いた。

- ・ 次年度以降、海外の各組織へヒアリングを実施するとより深い情報が得られるのではないか。各国の現状の取組への問題意識や課題についても調査するとよい。
- ・ 届出者のインセンティブの一つとして、CERT-EU の Hall Of Fame といったインパクトのある呼称を用いることは費用も掛からず有効なアプローチである。

#### 6. 情報システム等の脆弱性情報の取扱いに関する調査実施報告書(案)について

事務局から、資料 2-7 に基づき調査結果の説明後、以下の意見を頂いた。

- ・ 普及啓発が今後の課題。安全確保支援士等資格試験で活用してもらってもよい。また、IPA 内だけでなく、他団体・組織等とも連携を図って普及啓発していくのがよい。
- ・ 海外の脆弱性対策取組みについては、個々の調査だけでなく、国際的なパートナーシップを構築することも重要。

#### 7. その他について

事務局から、今後の進め方について説明の後、委員からのコメントの採否については土居座長に一任することの了承を頂いた。